

新着図書から佐賀に関する本のご紹介

(平成29年11月21日掲載)

貸出と予約の開始は**11月21日(火曜日)**、インターネット予約の開始は**11月28日(火曜日)**です。

『丸山眞男講義録 別冊1』
丸山 眞男／著
東京大学出版会
1950年代後半の丸山眞男の講義を復元。古代へと視野を広げて、記紀神話、仏教、武士道を論じ、近代日本の国体思想の源流を求めて壮大な通史を描く。国民精神のトータルな変革をめざした、丸山思想史学の新たな出発。 県関係では、武士階級の意味形態の中で、「葉隠」が紹介されている。
請求番号：311.2/Ma,59/別1

『健太さんはなぜ死んだか』
斎藤 貴男／著
山吹書店
2007年、知的障害のある青年が不審者と間違われ、警官たちに取り押さえられて命を落とした。民事・刑事裁判の経緯を辿り、蔓延する社会的弱者への差別について考える。2016年の相模原障害者施設の殺傷事件にも触れる。 本件は、佐賀県で起きた事件。
請求番号：369.2/Sa,25

『対中外交の蹉跎』
片山 和之／著
日本僑報社
戦前期上海、当時の日本人外交官はなぜ軍部の横暴を防げなかったのか。上海で活躍した代表的な外交官の足跡を辿り、彼らが果たした役割と限界、挫折など現代の日中関係に通じる教訓と視座を提示する。 県関係では、戦前の上海で活躍した佐賀県出身の外交官、船津辰一郎が紹介されている。
請求番号：319.1/Ka,84

『まちを読み解く』
西村 幸夫／編 野澤 康／編
朝倉書店
国内29カ所の特色ある地域を選び、その歴史、地形、生活などから、いかにしてそのまちを読み解くかを具体的に解説。地域づくりの調査実践における必携の書。「まちの見方・調べ方」の続編。 県関係では、佐賀市、鹿島市が紹介されている。
請求番号：518.8/Ma,18

『みちづれはいても、ひとり』

寺地 はるな／著

光文社

子供はいなくて、夫と別居中、今は職を探している弓子39歳。男とすぐに付き合ってしまうけれど、二股はかけない、不倫はしない、独身で休職中の楓41歳。ひょんなことから2人は、弓子の逃げた夫を探す旅に出る…。

著者は佐賀県生まれ。

請求番号：F/Te,42

[➡バックナンバーはこちら](#)

[➡インターネット予約・貸出についてはこちら](#)

郷土資料室の到着資料一覧

[➡詳細はこちら](#)

郷土資料室の本は貸出を行っておりません。
郷土資料室での閲覧をお願いします。

[資料紹介へ戻る](#)

[佐賀県立図書館のトップページへ](#)